

# 《実施結果報告書》



## 広島平和記念式典派遣事業

2010年8月5日（木）～7日（土）



# 目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1
II	研修レポート・・・・・・・・・・	2
	① 三日間の日程	
	② 研修の記録	
	③ 学びの記録	
	④ 学びの発信	
III	派遣事業の概要など・・・・・・・・・・	15
	① 派遣事業の概要	
	② 派遣事業参加中の役割分担	
	③ 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開	
IV	広島平和記念式典派遣事業行程表・・・・・・・・・・	18
V	資料・・・・・・・・・・	19
	○ 非核平和都市宣言	

## 広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 カ

燕市は、平成18年12月25日「非核平和都市」を宣言しました。非核平和は私たち人類の普遍的願いであり、平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願って行ったものです。

日本は、世界で唯一の被爆国として、二度とあってはならない原子爆弾の恐ろしさを体験しています。平和の尊さと戦争の悲惨さを体験した私たちは、二度と戦争を繰り返してはなりません。人類が生きるために最も大切な「平和」に対する思いを真剣に世界に向けて訴えていく必要があります。

そこで、昨年度に引き続き、燕市では非核平和の推進及び平和学習活動の一環として広島平和記念式典派遣事業を実施いたしました。

この事業は、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式をはじめとする様々な催しへの参加、施設見学や被爆体験者の講話を受講することにより、次代を担う中学生から国際的視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解を深め、「命の尊さ」や「平和を愛する心」を学んでいただくために実施するものです。

燕市立の5つの中学校より代表各1名の生徒を広島へ派遣するとともに、全校の生徒からは、平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして千羽鶴を折り、これを「原爆の子の像」に捧げました。

生徒たちは、平和記念式典への出席、広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学、被爆体験講話の受講、灯篭流しへの参加などにより、「命の尊さ」や「平和を愛する心」について学んだことと思います。

今後は、各学校で、全生徒への報告会その他の事後研修を実施していただき、各学校の代表者が学んだことを、各学校の生徒さんたちみんなで共有していただけるものと思います。

終わりに、今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただいたことにつきまして、心より感謝とお礼を申し上げます。

## 三日間の日程

### 1日目 8月5日(木)

- ◇ 出発式(吉田庁舎) 7:00 ~ 7:30
- ◇ 移動(燕三条から広島) 8:11 ~ 14:15
- ◇ 木松旅館 14:30 ~ 15:00
- ◇ 平和記念公園 15:00 ~ 17:00  
千羽鶴奉納  
公園内見学
- ◇ 木松旅館 17:45 ~  
被爆証言講話 17:50 ~ 19:20  
夕食 19:30 ~  
ミーティング 20:00 ~

### 2日目 8月6日(金)

- ◇ 木松旅館 ~ 6:40
- ◇ 広島平和記念式典参加 7:10 ~ 9:00  
原爆死没者名簿奉納  
広島市長あいさつ 遺族代表あいさつ 広島市議会議長あいさつ  
献花 黙とう(平和の鐘) 平和の誓い(子ども代表)
- ◇ 広島城見学 9:00 ~ 12:30 (昼食)  
大本営跡、企画展「広島城崩壊!~原爆被害の実態」見学
- ◇ 広島平和記念公園 13:00 ~ 17:00  
原爆死没者慰霊碑参拝、企画展見学
- ◇ 木松旅館(夕食) 17:30 ~
- ◇ とうろう流し参加 19:00 ~ 20:30

### 3日目 8月7日(土)

- ◇ 市内見学(厳島神社) 7:30 ~
- ◇ 木松旅館出発 9:30 ~
- ◇ 移動(広島~燕三条) 11:44 ~ 18:04
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:05

## 研修の記録（事前学習）

### ① 調べた内容 原爆について

「急性放射線症」・「リトル・ボーイ」・「ファット・マン」・「ケロイド」

（広島：ウラニウム爆弾）（長崎：プルトニウム爆弾）

### ② 被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

#### 【原爆投下直後編】

- ・原爆が落ちた直後に見た光景は。
- ・大勢の亡くなっている人を見て何を思いましたか。
- ・状況を理解するのにどの位の時間がかかりましたか。
- ・原爆が落ちてまず初めにしたことは何ですか。
- ・最初に泣いたのは何が起こった時ですか。

#### 【戦後編】

- ・戦争中と戦争後、どちらが食糧に困りましたか。
- ・戦争が終わって変わったことは何ですか。
- ・戦争中に困ったことと、戦争後に困ったことは何ですか。
- ・戦争が終わって良かったと思えますか。
- ・戦争を通して学んだことは何ですか。
- ・戦後も様々な原爆症で苦しんでいる人たちを見てどう思いますか。

#### 【7日から15日の間編】

- ・川や井戸には死体がたくさんあったと聞きましたが、水はどうやって飲んだのか。
- ・何を食べて過ごしたのですか。
- ・どこへ逃げましたか。それともずっと家にいたのですか。
- ・15日の日ラジオで玉音放送を聞いた時、何を思いましたか。

#### 【現在編】

- ・戦争が終わったら原爆を投下したアメリカを恨んでいますか。
- ・核を持っている国をどう思いますか。
- ・日本はこれからも戦争をしない核を持たないと思えますか。
- ・あなたの考える平和ってなんですか。
- ・今と前で原爆に対する考え方で何か変わった点がありますか。



## 学びの記録（参加中学習）被爆証言講話

講師：笠岡貞江さん（75歳）・・・（当時 高等女学校1年生）

8月6日午前8時15分、広島は晴れていました。空を飛行機が通りました。次の瞬間「ピカッ」と光って「ドーン」という音がしたそうです。一瞬のうちにほとんどが焼かれてしまいました。貞江さんは、始め何が起こったか分からなかったそうです。

貞江さんは、戦争のあった時「軍需工場」へ行っていました。しかし、8月6日の日はたまたまお休みでした。だから原爆から助かったそうです。もしも、この日休みではなかったら……。貞江さんはすごく運が良かったと思います。



原爆が落ちた後、貞江さんはお父さんお母さんを探しました。親戚の家にお父さんがいると知った貞江さんは、お父さんを迎えにいきました。しかし、そこにいるお父さんは、全身真っ黒で服も着ていませんでした。お父さんは、「水をくれ」と何回も何回も言ったそうです。お父さんのやけどは大根をすりおろしたものをシップ代わりに付けたそうです。お父さんが「ビールが飲みたい」とすごく言ったそうです。

貞江さんは何とか飲ませてあげようとビールをあげようとしていました。しかし、間に合いませんでした。また、貞江さんのお母さんも亡くなっていました。貞江さんは、この日、両親を一度に無くしました。

私は、貞江さんの話を聞いて「戦争」と「原爆」の怖さをすごく感じました。学校の授業とは違う。体験した方から学ぶことはたくさんありました。だからこそ伝わるものもありました。私たちは、もっと平和について考えなければいけないと思いました。

## 学びの発信（参加後報告）

私が広島へ行って学んだことは、戦争の怖さです。学校の授業で習うのとは違って身近に感じました。この町に原爆が落されたとは思えませんでした。

私は一番原爆資料館が印象に残っていて、そこにある写真などは目を背けたくなるものばかりでした。でも本当にあったことだと思うと日本はなぜポツダム宣言が発表されてすぐに受け入れなかったのだろうと思いました。



また、私は広島研修を通じて平和の大切さを学びました。今だから日本は戦争をしませんでしたが以前は日本もしていました。そしてたくさんの兵士を失いました。戦争は勝てばいいわけではありません。見方を変えると、日本は戦争には負けましたが平和を手に入れることができたのです。私はこの平和がずっと続くよう願っています。

## 研修の記録（事前学習）原爆の被害・惨状

原子爆弾による被害は、熱線・爆風・放射線の三つのエネルギーによって、瞬間的にそして無差別的に、大量の破壊・殺りくが引き起こされたことです。

熱線による被害	爆風による被害
原子爆弾が爆発するとき、非常に強い熱線によって爆心地では、地表温度が3,000～4,000度に達しました。	原爆による爆風のしくみ
	原爆が爆発する。
	高温の火の玉が発生して周囲の空気がすごい勢いで膨張する。
	空気の壁ができ、猛スピードで広がる。
	この後に空気が流れ込んで強烈な爆風となる。
	爆風が広がるにつれて爆心地のあたりは急に気圧が薄くなり圧力が下がる。
	外に向かって吹き出した空気が、逆に爆心地に向かってすごい勢いで吹き込む。（負圧）
	爆風と吹き戻しの風で被害が広がった。
原爆によって発生したエネルギーの内訳 爆風；50% 残留放射線：10% 初期放射線：5% 熱線：35%	

## 学びの記録（参加中学習）青少年国際平和未来会議ヒロシマ2010

8月6日（金）に広島平和記念式典が終わった後、「平和」について考えるための沢山の企画がありました。

### ◆世界にとどけ“原爆の詩”“ヒロシマの心を世界のことばで



被爆者の詩を日本の高校生と外国の高校生が読み上げます。外国の方の一生懸命さが伝わり、目が離せなくなってしまう。スクリーンに映し出された爆発後の絵は、とても衝撃的でした。

#### ◆アニメーション「ねがい」

「ねがい」は、広島市立牛田中学校美術部が作成したものです。

#### 【感想】

みんな、自分にできる表現法で平和の大切さを一生懸命に伝えてくれました。

ここで感じたものを私は絶対に忘れません。



## 学びの発信（参加後報告）広島で学んだもの

私は、広島で新しい体験を沢山しました。その中でも、被爆者の方の話が印象強く残っています。

私たちに話をしてくださったのは、笠岡貞江さん、原爆により両親を亡くされました。笠岡さんの話は、とても惨いものでした。原爆によって全身真っ黒に焼けて、少し触るだけで皮がむけ肉が出てしまう父、顔を見ることもできないまま亡くなった母。自分に置き換えて考えるとゾッとしてしまいました。

そして、思い出したくないと思いながらも必死に話して下さった笠岡さんのためにも私は、平和の大切さを考え、広島で学んだものを周りに人たちに伝え、意味のある活動をしていきたいと思います。小さな事でも私にできる事をしたいです。



## 研修の記録（事前学習）今、世界のどこかで起きている戦争

今でも世界中でさまざまな戦争が起こっています。その中で、イラク戦争は国内で今でも続いています。街の中を工兵部隊が銃を持ち、歩いているという光景が日常的に見られるのです。

そして、北朝鮮と韓国は休戦中にあり、いつまた戦争が起こってもおかしくない状況にあるのです。

戦争には何の意味もありません。戦争が残すものは「悲しみ」や「苦しみ」だけなのです。だからこそ戦争をなくし、世界平和を願わなければいけません。



## 学びの記録（参加中学習）広島平和記念式典

二日目、僕たちは平和記念式典に参加しました。

そこでは、平和宣言や国連事務総長の話を聞きました。どれも多くの命が失われ、大きな悲しみを物語るものでした。広島市長の秋葉さんの平和宣言では、核兵器のない世界をつくるには、「被爆者たちの本願を世界に伝えることが大切だ」とおっしゃっていました。その言葉を聞き、強く「核兵器のない世界」「平和」について考えました。



## 学びの発信（参加後報告）世界平和のために



これまで僕は、戦争について深く知り、考えることがありませんでした。しかし、今回の派遣事業を通じ「平和の尊さ」を考えました。

平和記念式典では、広島市長の平和宣言や平和への誓いを聞きました。特に心に響いたのは、国連事務総長のあいさつにあった「爆心地から、大量破壊兵器のない世界を目指す。」

というものです。今もまだ世界にたくさんの兵器、そして戦争があります。これまで見た  
り聞いていた悲惨な光景が自分たちに襲いかかると思うと、胸が締め付けられるほど悲し  
い気持ちになりました。

そして、資料館で見て学んだことは、一生忘れられないほど心に残る残酷なものでした。

## 研修の記録（事前学習）広島原爆投下の歴史的背景

広島への原爆投下の背景は、第二次世界大戦にありました。

第二次世界大戦で、日本は真珠湾攻撃や東南アジアへの侵略により、多くの人々の命を奪いました。しかし、ミッドウェー海戦で敗北すると戦局は悪化しました。また、日独伊三国同盟を結んだイタリア・ドイツはすでに降伏していま



した。それでも日本は戦いを続けていました。そして1945年7月26日、アメリカ、イギリス、中国が日本に無条件降伏を求めましたが、日本は戦争を続け、8月6日、9日に広島・長崎に原爆が投下されました。

もし、7月26日に無条件降伏をしていたら、ミッドウェー海戦のあとに降伏していたら、日本が戦争をしていなければ、広島・長崎の人々は命を落とさずに済んだかもしれません。

また、広島・長崎への原爆投下は正しいという意見がアメリカでは多いと聞きました。原爆投下は正しかったのかどうかは誰にも分からないと思います。でも、僕は原爆や戦争を学び、「戦争は二度としないこと」「世界平和を目指すこと」は絶対に間違っていないと思います。

広島原爆投下の歴史的背景を学び、平和について深く考えることは、僕たちの義務なのではないかと思いました。

## 学びの記録（参加中学習）広島平和記念公園

65年前の8月6日、世界で初めて原子爆弾が投下された場所が広島でした。その爆心地に近い原爆ドームのある平和記念公園に行ってきました。

路面電車から降りて第一に感じたことは、大きな木がたくさん植えられていることでした。広島に原爆が投下されたとき、この地で植物が育つとは思えないくらいに被害は大きかったそうです。それでもアオギリは翌年の春に芽吹きました。このアオギリは当時の人々に勇気を与えました。

駅から少し歩くと原爆ドームがありました。テレビや写真でしか見たことのない原爆ドームを生で見たときに鳥肌が立ったのを覚えています。原爆が投下されてこの中にいた人はみんな亡くなったそうです。非常にすさまじい場所ですが、一度訪れるべき場所だと思います。

その後、橋を渡り、原爆の子の像のところへ行きました。そこは被爆した10年後に白血病になり亡くなった佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちを慰霊するために作られました。この像の後ろには世界各地から送られた千羽鶴が大きなケースの中に山のように飾られていました。この鶴を折った人一人一人が平和への願いを込めて折ったのだと思います。

その中で一番印象に残っている場所は「平和の灯」です。最初に見たときはなぜ火が燃えているのだろうと疑問に思いました。平和の灯は、原子爆弾が世界から無くなると消されます。今回、広島に行ってみて、被爆された方々は、平和の灯が1日でも早く消えてほしいと願っていることが分かりました。



また、平和の灯を見るとその強い思いが伝わってくる気がします。僕も平和の灯を消すために自分にできることを頑張りたいと思います。

## 学びの発信（参加後報告）派遣事業に参加して

僕は、8月5日から2泊3日で、燕市内の中学校の代表と燕市の広島平和記念式典派遣事業へ参加しました。この派遣事業で学んだことは山のようにあります。その中で強く心に残っていることが2つあります。

1つは、被爆者の方のお話です。被爆者の笠岡貞江さんは65年前の8月6日に、自宅で被爆されたそうです。笠岡さんが「原爆を落とされて一番悲しかったのは、父さん、母さんと呼べる人がいなくなったことです。」「今はアメリカが憎いのではなく原爆が憎い。核はあってはいけない。作ってもいけない。」とおっしゃっていたのが印象深く残っています。初めて被爆者の方のお話を聞くことができ、とてもよかったです。

2つ目は、平和記念公園です。原爆ドームや原爆の子の像があり、とても平和について考えさせられる場所でした。僕はその中でも、平和の灯が強く心に残っています。最初は、なぜ火が燃えているのか疑問に思いました。平和の灯は、世界から原爆がなくなったときに消されます。笠岡さんをはじめとする被爆者の方は、この灯が消される日を待っています。そのことを知り、僕もこの灯が消される日が来ることを望みたいと思いました。



最後に、アメリカが原爆を投下したのは正しいのかは僕には分かりません。でも、原爆をなくすことは絶対に間違っていない。笠岡さんは、僕たちに自分の体験したことを、たくさん話してくださいました。それはとても辛いことだと思います。笠岡さんは、自分が辛い思いをしてでも、原爆をなくすために講話をされています。笠岡さんをはじめとする被爆者の方々の思いがみなさんに届くことを祈ります。

## 研修の記録（事前学習）第二次世界大戦の戦時下の生活

### 日用品と食糧



日中戦争の開戦後に施行された国家総動員法以降、軍需品の生産は飛躍的に増加し、これを補うために贅沢品の生産や輸入が抑えられ「国民精神総動員法」の政策の元に「ぜいたくは敵だ」の標語が多く見られた。さらに1938年よりガソリンの消費を抑える目的で導入された木炭自動車が増え、1940年には、外貨の流出を防ぐため個人利用目的の欧米からの自動車の輸入が禁止された。しかし、生活必需品や食糧の生産及び流通はこれまで通り、レストランやビアホール、料亭などの営業は通常通り行われた。

1941年12月に対英米戦が開戦すると、1942年には食糧管理制度が導入され、物価や物品の統制がなされ、政府に安い統制価格で生産品を売り渡すことを嫌った農家が売り渋りを行ったため、生産量は変わらなかったにもかかわらず食糧の流通が減った。

### 国民動員



日中戦争開戦後、徴兵年齢に達した多数の男性（大学生などや軍需製品開発に従事した者を除く）が徴兵されたために医師の数が不足した。このために、戦時中の医師不足対策が実施された。さらに対英米戦の約二年後には大学生や理工系を除く高等専門学校の生徒などに対する徴兵猶予が廃止され、学徒動員が実施されたほか、熟練工が戦場に動員された代わりに学生や女性が動員された。小学生は「少国民」と呼ばれ、小学校でも基礎的な軍隊への親近感を抱かせるような教育が行われた。

対英米戦の対戦以降も国民学校による基礎学習、中等教育は変わらず行われたものの、本土に対する連合軍機の大規模な空襲を受け、1944年8月4日には、学童疎開が開始された。

## 学びの記録（参加中学習）平和記念資料館

平和記念資料館は、1955年（昭和30年）8月、原爆による被害の実相を世界中の人々に伝え、核兵器廃絶と、世界恒久平和の実現に寄与するために設置されました。

### 展示品

この写真は、原爆におそわれたときの様子です。  
皮膚がとけて、たれて、形がなくなっています。  
それでも頑張っ生きてようとしている姿です。



この写真は、原爆が投下された1945年8月6日  
午前8時15分を指している時計を拡大したものです。  
時計の実物が置かれています。

### 感想

この他にも、たくさん原爆の投下時のお弁当箱や服などが置いてありました。それを見ていると、その時の背景が思い浮かび、とても悲しく苦しい気持ちになりました。

これからも、多くの方が原爆の恐ろしさを知り、核を無くそうという気持ちが広がっていくように私も多くの人に伝えて行きたいです。

## 学びの発信（参加後報告）

1945年8月6日。今から65年前広島に原爆が落とされました。その広島を私は訪れました。原爆ドームや平和記念資料館には、原爆投下時の痛みや悲しみがまだ残っていました。被爆者やご家族の方々も悲しみ続けていました。被爆者の一人、笠岡さんからお話を聞くことができました。

笠岡さんは、原爆で両親をなくし、沢山苦しい思いをしてきたそうです。私はこのお話の中で「平和は愛の心であり、平和はともしびの掌。核は絶対にあってはいけないもの」という言葉が心に響きました。そして、このことを一人でも多く伝えたいとおっしゃっていました。私も広島で感じ聞いたこと、原爆の恐ろしさを多くの人に伝えていきたいです。愛の心を持ち、いつか核が消えて平和が訪れるよう願います。



## 学びの発信（参加後報告）

「だから今私は話をしている...」

小学生のころ、「はだしのゲン」を漫画本で読んだ。怖いという思いと、今思えば、どこか原爆のことを他人事と考えようとしていた自分がいたように思う。10年前に家族で広島を訪れた。「日本人である以上、一度は行ってみなければ...」そんな思いで家族と訪れた原爆ドームと広島平和記念資料館。「人影の石」の無言の訴えが強く心に残ったのだった。



そして今年の広島平和記念式典派遣事業。私自身が、一人の人間として、5人の中学生とともに本当に多くの感動を味わうことができた。ヒロシマに日本人だけでなく、世界の多くの人が目を向けていた事実。65年前と同じ8月6日の暑さとまぶしい陽射し、青い空。今も終わっていない原子爆弾で家族を失った広島の人々の思い。秋葉広島市長の広島弁を交えた平和宣言、小学生二人の平和への誓い、潘基文国連事務総長の挨拶、5万人を超える参加者による黙とうの静寂。どれもが心に突き刺さる学びの連続であった。

それらを支えたものが、初日の木松旅館での笠岡さんの被爆の講話だったのである。言葉にならないそのつらさから、50年間ずっと語り続けることができなかった事実。しかし、夢や希望を奪われた多くの人の思いのために「これじゃあいけん」と50年の時を経てから語り始めたその言葉一つ一つが耳から離れない。真剣に聞き入っていた5人の姿が笠岡さんの思いと重なる。「戦争がいかに弱いものに犠牲を強いるか」「広島の心、平和の願いは、話さない伝わらない」「平和は愛の心である」～広島の実実は重い。重いゆえに、私たちは、日本人として、人としてヒロシマをしっかりと受け止め、「平和」「非核」を考える大切さをあらためて学ぶことができた。私たちは、これからも学び続け、そして伝えていかなければならない。「広島で命を学んだ3日間」に心から感謝している。

## 学びの発信（参加後報告）

広島での3日間を終えて

広島平和記念式典参列のため、生徒たちとともに広島市を訪れた。事前の下調べで、原爆被害の実態をまとめた本を見ただけでも非常に恐ろしく、胸が締め付けられるようであった。

だが実際に被爆証言の講話を受講し、広島平和記念資料館の展示を見学すると、それ以上に圧倒されるものがあった。これは実際に65年前に広島で起こったことなのだ。今も後遺症に苦しみ、家族を失った悲しみを抱いておられる多くの方がいらっしゃる。



平和記念式典では、65年目にして初めて国連事務総長と、米英仏の各国代表が参列した。アメリカ国内では、駐日大使がこうして参列しただけでも（今回は参列のみで、献花や現地でのコメントの発表はなかったにもかかわらず）、賛否の渦が巻き起こったとのこと。アメリカ国内では原爆投下の正当性が広く主張されているが、それでも、見学して原爆被害の惨さを目の当たりにしたアメリカ人が戦争の愚かさ、平和の尊さを日本人同様に感じ取ってくれることを祈りたい。また、この65年目の式典が節目となって、核軍縮への機運が一層高まることを祈りたい。被爆証言の講師の方も、「今は、アメリカが憎いのではなく、原爆が憎い」とおっしゃっていたことが思い起こされるのである。

広島滞在中は、地元のテレビ放映は原爆関連の番組が多数で、宿で過ごした2晩はそうした番組をずっと視聴した。今まで主体的に考えながら原爆や戦争の問題について考えたことがあっただろうか。生徒たち以上に、深く考える貴重な機会を与えてもらったことと思う。

広島から戻って、8月9日は長崎原爆忌であり、職場でも投下時刻に合わせて黙祷を捧げたが、広島平和記念式典での黙祷の際の圧倒的な静寂さを思い出し、これまでとは違った厳粛な気持ちになった。

原爆被害、戦争被害の語り部は確実に少なくなっていく。その中で風化させずに、戦争の愚かさ、平和の尊さをいかにして考え、伝えていくか。今回貴重な経験をさせてもらったものとして、今後もこの経験を活かしていきたいと思う。

## 1 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおりです。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意してください。

### ① 目的

非核平和宣言推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

### ② 日程

平成22年8月5日(木)から 平成22年8月7日(土)まで

### ③ 主な活動内容

- (1) 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- (2) 広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- (3) 原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴を納める
- (4) 被爆証言講話の受講
- (5) 灯籠流しへの参加
- (6) 事後研修（8月下旬から9月にかけて事後研修として報告会を実施など）

### ④ 行程

（広島平和記念式典派遣事業行程表のとおり）

集合：吉田庁舎第1会議室 午前7時

### ⑤ 参加者名簿

氏名	性別	学校名	学年	備考
山崎 薫子	女	燕中学校	3	
金子 舞花	女	小池中学校	3	
酒井 威	男	燕北中学校	3	
近藤 直輝	男	吉田中学校	3	
大高 葵	女	分水中学校	3	

### ⑥ 引率者

小林 徹哉	男	学校教育課
岡田 美穂	女	総務課

## 2 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動の一環として、参加者の皆さんから、次の通り役割分担をしていただきます。

役割分担の内容		人数	氏名
(1)	出発式代表あいさつ(参加に当たっての心構え)	1名	金子 舞花
(2)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	1名	山崎 薫子
(3)	ミーティング司会	1名	大高 葵
(4)	2日目昼食場所の選定(意見とりまとめ)	1名	近藤 直輝
(5)	報告書とりまとめ(執筆分担したもののとりまとめ)	1名	酒井 威

## 3 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

「国際的な視点・命の尊厳・平和の尊さ」を学び、さらに、他の生徒たちへ伝えるため、「研修の記録」、「学びの記録」、「学びの発信」という3ステップで学習活動を進めます。

### ① 参加前学習(研修の記録)

- (1) 行程及び資料の確認
- (2) 広島原爆投下の歴史的背景
- (3) 第二次世界大戦の戦時下の生活
- (4) 原子爆弾の被害・惨状
- (5) 今、世界のどこかでおきている戦争
- (6) 被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

近藤 直輝
大高 葵
金子 舞花
酒井 威
山崎 薫子

### ② 参加中学習(学びの記録)

- (1) 平和記念公園
- (2) 平和記念資料館
- (3) ひろしま子ども平和議会等
- (4) 被爆証言講話
- (5) 広島平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)

近藤 直輝
大高 葵
金子 舞花
山崎 薫子
酒井 威

### ③ 参加後報告(学びの発信)

参加後に報告として、次の通りとりまとめ、提出してください。

項目	説明	担当者	備考
(1) 研修の記録	期間中の主な行程についてまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真2枚)
(2) 学びの記録	見聞きして学んだことをまとめる	執筆分担による	A4一枚程度 (写真数枚)
(3) 学びの発信	参加して得たものをまとめ、発信する	各参加者全員	400字程度 (写真一枚)

#### 4 その他

##### ① 宿泊先施設

名 称	木松旅館
所 在 地	広島市西区己斐本町2丁目1番3号
電話番号	082-271-1424
F A X	082-271-4850

##### ② 服装

区分		主な活動内容	制服	私服
1日目	午前	出発～宿泊施設		○
	午後	広島平和記念公園で千羽鶴を納める	○	
	夕方	講話受講	○	
2日目	午前	広島平和記念式典参加	○	
	午前・午後	ひろしま子ども平和議会見学	○	
	夕方	灯籠流し		○
3日目	午後	宿泊施設～燕三条		○



美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

## 被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは昭和 48 年(1973 年)に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。被爆アオギリ 2 世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切に作る心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 19 年 4 月 植樹



市役所吉田庁舎正面玄関前



広島平和記念式典派遣事業

実施結果報告書 2010年8月5日(木)～7日(土)

燕市：●総務部総務課 ●教育委員会学校教育課